

島民と大学生の協働による 活力ある島づくり

蓋井島地域づくり協議会
平成26年度～平成28年度

蓋井島地域づくり協議会・水産大学校村おこし会(中村・岸上・協谷)

地域の現状と課題



蓋井島

- 活動地域：下関市蓋井島
- 地域の概況
人口100人、38世帯、高齢化率38%
第1次産業への依存が高く、水産業に特化した山の神神事(6年に1度)、サザエ飯、エミューが有名
- 地域の課題およびニーズ
年間行事や海岸清掃への参加(交流)
学生目線によるマップの作成(観光振興)
「夢プラン」の作成支援(計画策定支援)

取組の概要

到達目標

女性部による商品開発やマップづくりによる島の情報発信により、地域活性化を目指すとともに、島民意識調査等の基礎調査により、今後の島のあり方を検討する。

地域協議会の活動内容(予定)

島民と学生との交流を一層深め、アンケート調査やヒアリング調査をしやすい関係づくりを行う。また、計画の必要性について島民の理解を深める(学生等から説明してもらおう等)。可能であれば、学生目線で商品開発やマップ等を作成する。

学生にも協力してもらい島民意識調査等の基礎調査を実施し、学生とともにまとめる。学生の支援のもとワークショップ等を実施する。可能であれば、学生目線でマップ等を作成してもらい、島民とともに、市内で配布する。

3年間のまとめ
簡単な島の総合計画ができたらいと考える。

大学等の支援内容(予定)

・海岸清掃への参加
・小学校の運動会への参加
・地域資源の掘り起し
・商品開発に向けたワークショップ
・その他

・マップづくり
(島民とのワークショップや専門家の意見聴取)
・島外イベントに参加し、マップ等を配布
・アンケート調査やヒアリング調査
・その他

・3年間の活動のまとめ
・「夢プラン」策定支援
・その他

活動状況①

島民との交流(運動会や島の散策)



注:活動状況の一部の写真は前年度のもの

活動状況②

島の暮らし体験(調理実習、民宿)



活動状況③

島の暮らしヒアリングや意見交換会



取組の成果等

• 地域の課題に対してどのような効果があったか

- ◇ 学生が何度も島を訪問し、島民との話し合い等を積み重ねることにより、島民と学生との間に信頼関係が出来つつある。
- ◇ 地域ニーズがありながら、着手できなかった特産物(水産加工品)の製造を試行するきっかけができるなど、具体的な活動につながっている。
- ◇ 村おこし会の取り組みにより、他の学生や一般市民に対する蓋井島のPRにつながった。

• 残された課題や今後の取組

- ◇ さまざまな企画等を実施するにあたって、いかに多くの島民を巻き込みながら、地域活動を展開させるか。
- ◇ 都市住民等との交流事業に対する意識の差があり、現時点では、島をあげての取り組みとなっていない。また島外におけるPRの媒体が少ない
- ◇ 研修会や勉強会を実施して、商品開発の手法や交流事業の重要性を学ぶとともに、今後の地域を考える機会が必要である。

活動参加者

地域での受入組織

人数30名

蓋井島地域づくり協議会

- 蓋井島自治会 会長 中村 求
- 島民女性 Aさん

学生が来ることだけでもうれしい

若い人が島外に出ていく中で水大生が来ると活気がでる。なかなか冬場は渡船の欠航が多く予定が組みにくい

- 1ターナー者

島ののんびりとした隠れ家的な雰囲気味わってほしい

支援大学等

水産大学校

人数14名

- 3年 脇谷 倫子
- 3年 江越 沙詠
- 4年 東 拓弥

学校の講義だけではわからないことがたくさんあった。

島で教えてもらったサザエ飯は絶品。でも学祭で自分たちでつくるとなかなか同じ味にならない。なぜ。

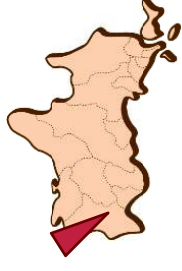
島の民宿に宿泊したが、料理が絶品。また、経営目的も違っておもしろかった

事業名：下関市菊川町における空き民家を拠点とした
耕作放棄地の復田プロジェクト
地域協議会名：貴和の里につどう会
活動期間(予定)：平成26年度～平成28年度

発表者：山口大学・生活空間デザイン学研究室

地域の現状と課題

- 活動地域：下関市菊川町響井・縦の木・道市
- 地域の概況



山口県西部の中山間地域に位置する当地域では、過疎・高齢化の問題に加え、空家や耕作放棄地の増加が問題となっています。そうした状況に対して、地域の活性化と自然豊かな山村の資源を活用したまちとの交流を目指し、地域住民が中心となって「貴和の里につどう会」が平成19年に発足されました。その後、現在に至るまで**活気と笑いのよみがえる竹源郷づくり**に向け、積極的な取り組みがなされています。

地域の課題およびニーズ

- 都市農村交流イベントを通じた農村体験機会の創出
- 耕作放棄地や繁茂竹林の活用と特産品づくり(竹炭、筍加工品、蕎麦、キムチ等)
- 空家を活用した拠点施設の整備と田舎暮らし体験の積極化

取組の概要

到達目標

- ①中山間地域において増加している空き民家の有効活用
- ②耕作放棄となった棚田の復田による集落景観の再生
- ③伝統民家での生活体験と農作業体験の機会の創出
- ④つどう会の担い手育成

地域協議会の活動内容(予定)

マスタープランの構築、
滞在型農業支援の試験的实施

▶ 地区内農地の現状を把握し、利用状況や立地、継続した維持・管理の可能性について整理し、今後の活用に向けて対象地の選定を行う。

大学等の支援内容(予定)

現地での活動に参加するとともに、フィールドワークを通して現地の状況を把握し、専門的立場から地域の活動をサポートする。

復田に向けた段階的プログラムの実施・課題検証

▶ 前年度の調査をもとに、対象地の優先順位・活動種別を決定し、年間スケジュールの中で段階的な活動を試みる。

大学生の体験的学習の場として、年間を通じた活動に参加するとともに、活動の拠点となる施設(空家活用)の運用に関する助言や具体的整備に参加する。

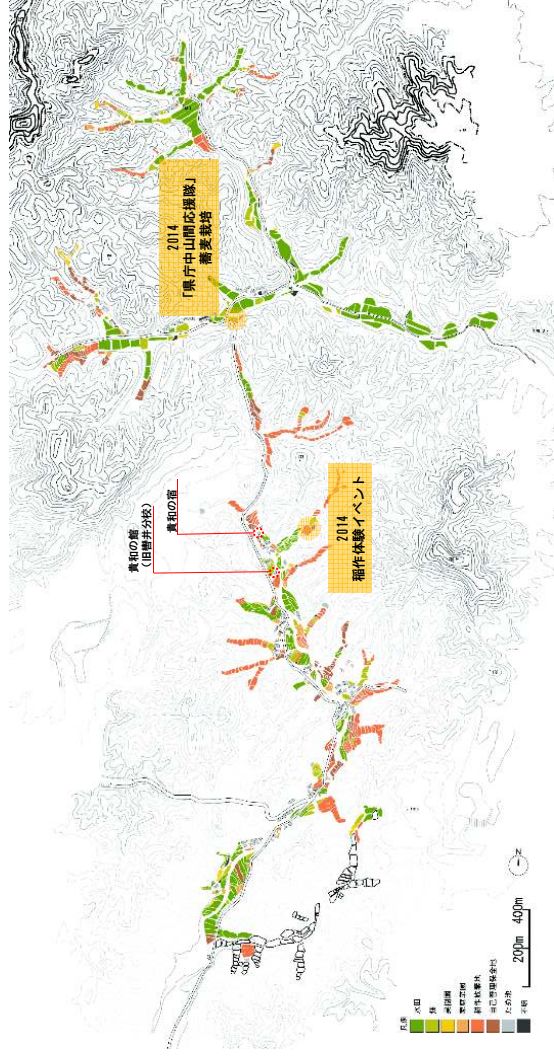
将来的な集落営農・景観保全のための体制確立

▶ 前年度までのケーススタディを通して得られた情報・課題を整理し、次世代の取り組みに繋げていくための体制づくりを行う。

地域が抱える課題を見える形で整理するとともに、対外的な情報発信の際のツール作成・編集など、専門性を生かしながら、共同で活動に取り組む。

活動状況①

地区内土地利用状況の調査(土地所有者、管理状況・管理者、所有者意向、立地)
再生候補農地の選定と取り組み(他事業との連携)

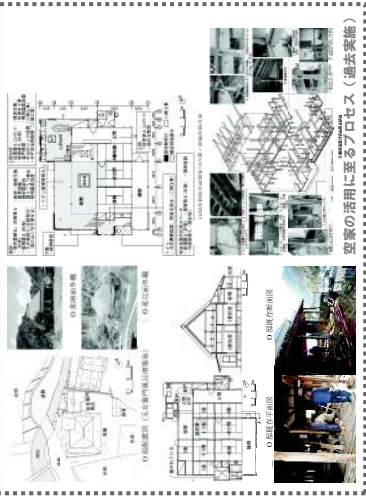


活動状況②

耕作放棄地を活用したもち米づくり（餅つき）体験と
県庁中山間応援隊による蕎麦づくり



活動状況③



**拠点の活用
「貴和の宿」**

体験内容

- 伝統木造民家宿泊体験
- 籠を用いた炊事体験
- 五右衛門風呂入浴体験
- 農業体験時の休憩・簡易宿泊
- イベント時の休憩・簡易宿泊



体験機会創出
に向けた広報活動

- HP
- ポスター
- チラシ



取組の成果等

• 地域の課題に対してどのような効果があったか

- これまでの継続した取り組みの成果もあり、イベントには多くの都市住民が参加するに至っている。
- 「貴和の里」での体験宿泊等の機会が発生している。
- イベントや県庁の協力隊の参加もあり耕作放棄地での試験的営農が実施することが出来た。
- 耕作放棄地を活用した活動の中心が農産物から農作物へ移行し、動道に乗ってきている。
(そば粉・キムチ・タケノコ等を道の駅で販売し、イベントには一般住民にも参加してもらっている。)

• 残された課題や今後の取組

- 地域資源の活用・地域特産品の開発・スタッフの高齢化をどうしていくか。
- 貴和の里」での体験宿泊等の機会が法人へ移行すべきか；利益等とのバランス
- 新規就農者をターゲットとしたチャレンジ制度創設・6次産業化・農商工連携の取組。域外住民の公募制度創設等。
- (体験者談) 実際の作業は思ったよりも重労働だった。
- 政策による環境づくりが求められている。併せて、地域住民が自主的・主体的に課題に応じた対応策を立てる必要がある。
- 地域の課題は農業だけに留まらず、複合的な課題となっており、具体的な成果につなげるためには、多角的な支援が必要である。
- 今後どうしていくかという「柱」が必要となる時期にきているのではないのか。
- 特に後継者についてはこれからどうしていくか考える中で、重要な問題である。
(「県庁中山間応援隊」意見交換会1203等より)

活動参加者

地域での受入組織

貴和の里につどう会
 会長 吉村利道
 人数94名
 地域委員42名
 地域外委員52名

・事務局 岡本雅
 山工工学部とのおき合いは19年から、埃にまみれながらの空き民家調査、一筆ごとの耕作放棄地調査、大変な仕事を黙々と続けてくれた。この事業で多少は参加の負担が軽減できたかな。学生は美立つので毎年変わるようだが皆真面目でおとなしい人が多いようだ。若い人としばしば過こすことで、老年の我々も若やいくなるよ。うだ。願わくは、日常もう少し頻繁に入ってくれたいことを望む。

・修士2年 中純一
 わたしたち研究室の学生は、「農村部における新たなコミュニティづくり」である「貴和の里」につどう会の取り組みから、今後の地域社会にとって必要な組織やシステムなどを、イベントへの参加・協力を通して学ばせていただいています。

例えば、毎週のイベントにおいて、恵まれた収穫が出来るのも、貴和の里につどう会と菊川町の竹林ボランティアの方たちが年に数回竹林整備を行っているためであり、イベントの成功を支えているのは集落を愛する人の苦勞と努力によるものです。これは稲刈りも同様であり、田植えから稲刈りまでの間の水田の管理がきちんと行われているからこそ成り立つ行事であり、華やかなイベント時に見えない努力があります。これからはイベントを支える裏方の作業にも協力していきたいと考えています。

支援大学等

山口大学生活空間デザイン学研究室
 人数20名

・修士2年 中純一
 わたしたち研究室の学生は、「農村部における新たなコミュニティづくり」である「貴和の里」につどう会の取り組みから、今後の地域社会にとって必要な組織やシステムなどを、イベントへの参加・協力を通して学ばせていただいています。

例えば、毎週のイベントにおいて、恵まれた収穫が出来るのも、貴和の里につどう会と菊川町の竹林ボランティアの方たちが年に数回竹林整備を行っているためであり、イベントの成功を支えているのは集落を愛する人の苦勞と努力によるものです。これは稲刈りも同様であり、田植えから稲刈りまでの間の水田の管理がきちんと行われているからこそ成り立つ行事であり、華やかなイベント時に見えない努力があります。これからはイベントを支える裏方の作業にも協力していきたいと考えています。

事業名：地元関係組織と外部学生による
錦地域の健康・安心サポート事業

地域協議会名：にしき安心サポートチーム
活動期間：平成24年度～平成26年度

山口大学医学部学生等

地域の現状と課題

活動地域

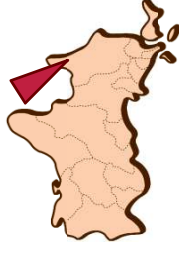
岩国市錦地域（旧錦町）

地域の概況

広島県、島根県との県境に位置する人口3000人弱の中山間地域で、高齢化率が53%と非常に高く、地域内に存在する集落の70%近くが小規模高齢化集落、いわゆる限界集落である。

地域の課題およびニーズ

少子高齢化、過疎化で、住民の健康問題が顕在化し、人の集まりが開けなくなると、集落機能の低下も生じている。これらの改善につながる外部の力が求められている。



取組の概要

到達目標

住民が健康に安心して生活できる地域づくり

地域協議会の活動内容

宇佐地区での調査、調査結果説明会
サロン
第1回にしきの支え合いを考えるつどい

大学等の支援内容

調査員、調査結果の発表
健康情報提供、健康クイズ・ゲーム
イベントスタッフとして参加

平成24年度

大原、広瀬地区での調査、結果説明会
サロン
第2回にしきの支え合いを考えるつどい

調査員、調査結果の発表
健康情報提供、健康クイズ・ゲーム
イベントスタッフとして参加

平成25年度

野谷地区での調査、調査結果説明会
サロン
第3回にしきの支え合いを考えるつどい

調査員、調査結果の発表
健康情報提供、健康クイズ・ゲーム
イベントスタッフとして参加

平成26年度

活動状況①

にしき安心サポートチーム
(錦地域住民支援連携会議)への参加



25年度
大原地区調査



25年度
広瀬高店街地区調査

24年度
宇佐地区
調査



全戸訪問調査は、対象地域で事前説明会を開催し、了解と地元の方々の協力を得た上で実施。調査時は、にしき安心サポートチームと一緒に訪問。調査ではあるが、質問をきっかけとしたおしゃべりでもあり、1人あたり30～40分かかるほど、話が弾んだ。

活動状況②

24年度 宇佐地区 調査結果説明会



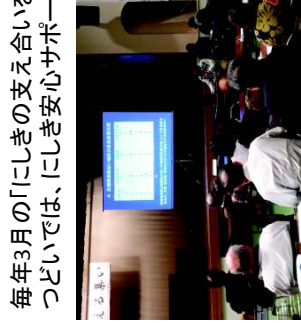
結果発表とグループワーク



KRY 熱血テレビで紹介されました



25年度 大原地区
調査結果説明会



毎年3月の「にしきの支え合いを考えるつどい」で活動報告つどいでは、にしき安心サポートチームと手作り昼食を提供



活動状況③



錦地域内で開かれるサロンなどを訪問し、健康情報の提供になるようなクイズをしたり、ゲームで勝敗を競いながら体を動かしたりした。このように人が集まり、一緒に楽しむことが健康づくり、地域づくりになることを一緒に考えた。



24年度



25年度

26年度

取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
全戸訪問調査により、住民個人と地域の現状把握ができた。学生が調査員となったことで、住民の受け入れがよく、その後の結果説明会などへの参加者が増えた。地元の方の関係機関が、にしき安心サポートチームとしてどういった取り組みをしていくのか、モデル的の事業となった。
- 残された課題や今後の取組
現時点では多くが現状把握に留まっており、調査等で明らかになった課題に対し、今後具体的な改善を得たい。そのためには、地元のにしき安心サポートチームと外部の学生等が引き続き協働を進め、この関係をより強固にしていく必要がある。

活動参加者

地域での受入組織

にしき安心サポートチーム

＜にしき安心サポートチームの感想・意見＞

- ・学生さんの元気で地元の人達も元気になっていた
- ・学生さん相手だといろいろ話しやすい面もあるようで、自分達だけでは聞けないような話が聞けて、いい情報になった
- ・学生の皆さんが聞き出してくれた問題を、今度は解決していくのが僕達の役目

＜錦地域住民の感想・意見＞

- ・自分達で呼びかけても人が集まらないが、若い学生さんが来ると言うのが大勢集まった
- ・自分達の地域のことを考えるいいきっかけになった
- ・一緒に食事をしたり、体を動かしたりして、おかげさまで10歳若返った
- ・これからも来て欲しい

支援大学等

山口大学医学部等

* 支援大学等一覧 *

- ・山口大学医学部
 - ・山口大学教育学部
 - ・防府看護専門学校
 - ・山口・メデイカル学院
- 参加学生人数
約 40名

＜参加学生の感想・意見＞

- ・住民の方々に訪問や交流を喜んでもらえてよかった
- ・自分達で考えて準備した健康を題材にしたクイズやゲームを「楽しかった」と言ってもらって嬉しかった
- ・地域の人と接するという貴重な経験ができた。次はもっといろいろな話を聞いてみたい。
- ・プライベートでもまた来たい

地域資源を活用した交流イベント等の 開催と高齢者の健康づくりへの支援

地域協議会名：地域交流の里

活動期間：平成24年度～平成26年度

発表者：岩国YMCA地域ふれあい会

地域の現状と課題

活動地域：岩国市北河内天尾地区



地域の概況

- ・ 錦帯橋から約20km錦川の上流に位置
- ・ 錦川清流線 北河内駅からほど近い地区
- ・ 人口 425人
- ・ 高齢者の割合 55%
- ・ 世帯数 233
- ・ 天尾小学校 現在休校中

地域の課題およびニーズ

- ・ 高齢化が進み行事を企画しても参加者がいない
- ・ 子供が少なく活気がない
- ・ 地域住民の交流が少ない

取組の概要

到達目標

各種行事に参加しながら地域住民と学生との交流を深め「岩国YMCA」を一人でも多くの方に認知していただき、地域に合った新しい行事を考え、協働で開催する。

地域協議会の活動内容(予定)

平成24年度
自然や地域資源を活用したイベント開催
天尾小学校運動会・二輪草群生地や竹林の整備
地域の伝統文化のPR
岩国基地の家族が参加しての国際親善プログラム

大学等の支援内容(予定)

地域行事への開催支援
地域ぐるみみの運動会開催支援
岩国基地の家族が参加する各種国際交流イベントの支援と高齢者への健康支援

平成25年度
自然や地域資源を活用したイベント開催
山里を生かした国際交流事業の企画実践
田植え・稲刈り・サマースクールなどの開催
健康チェックなどを通じた地域住民との交流サポート

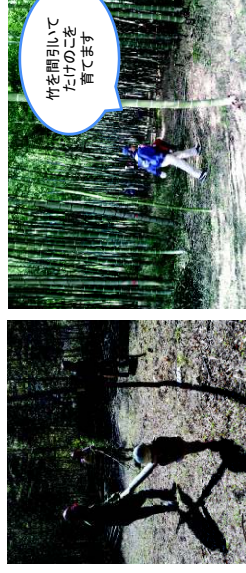
地域行事や地域資源を活かしたイベント開催・運営支援、休校中の小学校活用イベント(小学生サマースクール)や国際交流事業の開催支援。高齢者への健康チェックと現状把握に努める。

平成26年度
自然や地域資源を活用したイベント開催や特産品の開発、ユニークな販売方法を検討し実践する。

既存の地域行事や地域資源を活かしたイベントや国際交流事業の開催・運営支援。休校中の小学校活用イベント(小学生サマースクール)の開催支援。

活動状況①

日米親善 竹林整備&餅つき交流支援



竹を間引いて
たけのこを
育てます

日米親善だけのこ掘り交流



竹の子掘

日米親善 田植え体験・稲刈り体験 交流支援



稲刈りも大勢
で行いました

活動状況②

小学生サマースクール運営支援



学生リーダーが
こどもたちと活動します

自分たちの力
でテントも張り
ました

竹筒でご飯を
炊いたよ

ドラム缶の
お風呂、貴重な
体験です

地域の資源を
使ってお米を
炊きました

活動状況③

報告・発表会



学生による、当校での
活動報告発表会です

学校祭でも
活動を公開しました

取組の成果等

地域の課題に対してどのような効果があったか

- 地域で行われる行事への参加 → 地域ふれあい会を認知
- 高齢化が進む地区での若者参入 → 行事への子供の参加者増加
- 地域でのサロンに参加

→ 参加者の気持ちが悪くなり、雰囲気が悪くなった

残された課題や今後の取組

- 学生たちが主体性をもって地域に入り、交流を図る。
- 地域の方々との話し合いの場を定期的にもち、実態に即した活動を考えたい。
- 健康エッセイなどを通して、地域の方々との交流を広げたい。

活動参加者

地域での受入組織

地域交流の里	人数	人数
O氏	6名	
「YMCA地域ふれあい会」どの交流により、行事の時代 けとは言え、若者が入ることによって雰囲気明るくなる。		
S氏		
情報化社会が進むにつれて、都会でも田舎でも近所との 繋がりが薄れてきている。昔はオープンだった家々も最 近では締め切っている状況。特に高齢者が多い地域で は、自宅で住人が倒れても分からない。高齢者も積極的に に参加できる、または集まれるイベントも考えていきたい。		
H氏		
ぜひ、これからも学生たちには積極的に参加してもらい、 この地域を知ってもらいたい。若者と一緒にイベントを開 催することは自分たちも若返るような気がする。		
S氏		
学生たちが打合せの段階から参加し、意見を出し合っ て、より良い行事をつくってほしい。学校の授業が忙しく、 年間を通しての参加が難しいがよく手伝ってくれた。		

支援大学等

岩国YMCA地域ふれあい会	人数
2年生 杉山瑞歩 医療秘書学科 地域の方とのふれあい、産まれて初めて学ぶ農作業活 動や、米軍の方たちとの交流、すべて体験させていただ きました。初めての事が多くとてもいい体験ができてまし た。	人数28名
1年生 木村夏実 保健看護学科 地元の方や米軍基地の方との交流で笑顔が生まれ、微 力ながら地域活性のお手伝いできたのではないかと、 貴重な経験をさせていただきました。もっと多くの人に参 加して頂けるような企画の工夫や広報の工夫もお手伝い ができればと思います。	
卒業生 保健看護学科 高齢者宅を戸別訪問し、地域の高齢者から直接お話が 聞けた。「若い人の地域への参加が少なく、交流が図れ ていない」「介護保険制度の仕組みが分からないなど具 体的な意見を把握することができたが、継続できなかつ たことが、とても残念だ。地域の方々や相談しながら二 人に合った支援ができればと思う。	

事業名：由宇トマト六次産業化サポート事業

地域協議会名：神東地域振興協議会

活動期間(予定)：平成26年度～平成29年度



発表者：広島国際学院大学・「となりのトマト・由宇」PJ

活動地域：岩国市由宇町

地域の概況

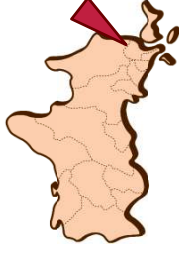
岩国市由宇地域は山口県東部に位置し、瀬戸内海に臨む温暖な地域で、江戸時代

は廻船業、近代になってからは繊維工業、農業、漁業が町を支えてきたが、近年は岩国、柳井地域のベッドタウン化している。

地域の課題およびニーズ

高齢化の進展に伴い一人暮らし高齢者が増加し、耕作放棄地の増大や小中学校の廃校等が問題視される等地域の活力が急速に衰えている。

→地域のニーズ：「由宇とまと」の6次産業化を通じて、地域経済が循環できる仕組みを作り、新たな雇用を生み出すことで地域の活力を高めたい。



到達目標

「由宇とまと」というブランドを使って、地域経済が循環できる仕組みをつくり、地域をより広く知ってもらおうとともに地域の活力を高めていくこと。

地域協議会の活動内容(予定)

由宇とまとのブランド化と6次産業化にむけての検討

六次産業化に向けた商品企画と販売チャネル開発
(市場機会の探索)

新商品開発と販路拡大策の検討

大学等の支援内容(予定)

トマト市場の現状調査
(市場、価格、品種)
ブランド化の可能性の検討

トマトを使った新商品の検討
と、販売チャネルの開発および既存商品の見直し

新商品の開発及び
提携販売先の開拓支援に
対する提案

平成26年度

平成27年度

平成28年度

取組の概要

活動状況(協議内容)①

現状把握

- 「由宇とまと」の生産者(農家数11軒)から、トマト生産および販売の現状についてヒアリング調査を行った。
- スーパーマーケットの店頭で販売されているトマトの産地、種類、価格の調査を行い「由宇とまと」との比較検討を行った。
- 「由宇とまと」は生産期間(4月中旬～7月上旬)が短く、少量生産(年間生産量約70t)のために希少価値が「ブランド」となっているのでは？



ブランドトマトの定義

- 既にあるブランドトマトと「由宇とまと」との比較を行ったところ、「糖度」が品質基準となっていた。
- 「由宇とまと」は、組合組織化されていないために、一括で出荷管理を行うセンターが無く、小規模農家では、高価な「糖度計」が購入できない。
- 「由宇とまと」をブランド化するためには、「糖度」等を含めて品質基準が必要ではないか？



由宇とまとの加工

- 六次産業化に向けて既に「とまとジュース」、「とまとケチャップ」が販売されている。
- この製品の原料は、出荷基準に満たなかったとまとであった。
- また、生産期間が短いことから、これらの製品が地元道の駅で販売されるのも短期間である。
- 六次産業化に向けては、生産量が問題？

取組の成果等

- **地域の課題に対してどのような効果があったか**
 本来の意味においての「ブランド化」にむけて、産地としての品質基準は不可欠であり、そのための生産者の組織化は不可欠であることは共通認識された。
- **残された課題や今後の取組**
 現状、生産組合には地元生産者を束ねる力はない。しかし、与えられた状況の中で、これらの「弱み」をどのように「強み」に変えるのかを地域と共に検討していきたい。

活動参加者

地域での受入組織

「とまのトマト・由宇」協議会 人数 8名

- 瀧山 進
- 柳村 東
- 石丸隆紀
- 米本 修
- 弘中英司
- 村上義隆
- 松本敬一
- 藤井昭久



学生の若い感性で出してくれた、様々なトマトに関する提案を実現できるようにしていきたい。

支援大学等

広島国際学院大学 人数 5名

- 現代社会学部 3年
- 田中和也
- 片山雄太郎
- 為岡泰弘
- 三浦菜々
- 藤原純也



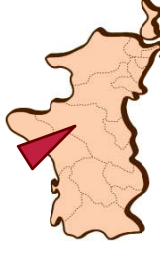
今年度の取組でブランド化に向けての課題は明確になった。具体的な成果を出せるよう、引き続き取り組んでいきたい。

事業名：ICTを活用した高齢者見守りサービスと
 地域スーパーの運営改善に向けた取り組み
地域協議会名：NPO法人ほほえみの郷トイトイ
活動期間(予定)：平成26年度～平成27年度

発表者：山口大学 地福協力隊

地域の現状と課題

- **活動地域**： 山口市 地福地区
- **地域の概況**
 山口市阿東地域にある5地区の内のひとつで、人口は1449人、高齢化率は44.1%で少子高齢化が進んでいる。地区内にあったスーパーが撤退し、生活環境が悪化していることから、住民が支え合い、生きがいを持って暮らせる地域づくりが必要となっている



- **地域の課題およびニーズ**

①安心して暮らせる生活条件の確保

(買い物拠点の整備、交流拠点の整備、地域内交通の整備)

②誇りを持てる地域づくり

(地域資源・人材の活用、支えあいの仕組みづくり)

取組の概要

到達目標

地域のニーズである安心して暮らせる生活条件の確保、および、誇りを持てる地域づくりを進めていくために、地域で行われているICTを活用した地域内の高齢者の見守りや安心安全に向けたサービスの取り組みや地域スーパーの運営改善に向けた取り組みを支援する。

地域協議会の活動内容(予定)

ICTを活用した高齢者見守りサービスと
 地域スーパーの運営改善に向けた
 取り組みの現状・ニーズ調査

平成26年度

大学等の支援内容(予定)

・地域内調査(地域スーパーの利用に関するアンケート)
 ・アンケート調査の集計・分析
 ・アンケート結果報告会

ICTを活用した高齢者見守りサービスと
 地域スーパーの運営改善に向けた
 取り組みの検証

平成27年度

・移動販売の利用促進へ向けた
 マッピングによる販売ルートの検討
 ・ICTを活用した高齢者支援の仕組みづくり



「ほほえみの郷トイトイ」店舗内に設置された
 交流スペースを利用しながらの調査



「地域スーパートイトイ」を利用する地域の方へ
 店舗内で調査を実施

活動状況①

活動状況②



移動販売トイトイ号に帯同し、利用者の方へ調査を実施



利用する地域の方からは、移動販売に対する感謝の声や要望の声があった

活動状況③



個別訪問による調査も実施し、中山間地域の現状を学んだ



調査にはICT端末を利用し、ICT端末利用の拡張性についても検証

取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
 - 調査を通じて、高齢者見守りサービスのニーズ、ならびに、買い物拠点として「地域スパートイトイ」や移動販売トイトイ号の重要性を確認し、運営上の課題・改善策について整理した
 - 弁当や総菜への強いニーズがあることが調査で明らかになり、調査を行った同年に「ほほえみの郷トイトイ」店舗内に新設された地元女性グループを中心とする食品加工場における弁当・惣菜づくりが、地域スーパーの運営安定化と販売促進につながることが期待される
- 残された課題や今後の取組
 - 未利用者の新規開拓へ向けた取り組みと検討
 - 移動販売ルートの再検討(マップピング)
 - 販売データの集計・活用
 - 高齢者世帯への支援(見守りサービス)
 - 交流スペースを活用した付加的サービス

活動参加者

地域での受入組織

NPO法人ほほえみの郷トイトイ 人数34名

- 西村 新二(理事長)
- 高田 新一郎(事務局長)
ほか30名
- 松本 宏之(地域おこし協力隊)
- 平山 徹(地域おこし協力隊)

アンケートシステムづくりを担当しました。日々耳にする声を統計的な視点から見ると驚きがありました。

アンケートの集計・分析を担当しました。地域の方々の様々な意見を聞くことができ、大変参考になりました。

支援大学等

山口大学 人数11名

- 後藤 勇太(3年)
- 田中 美里(3年)
- 中村 菜摘(3年)
- 牧野 篤士(3年)
- 松岡 正紘(3年)
- 南里 翔平(3年)
- 若槻 翔平(3年)
- 投野 香奈(2年)
- 古谷 佳那恵(2年)
- 藤辺 葉月(2年)
- 齋藤 英智(教員)

中山間地域の現状に直に触れることができ、良い経験になった。

買い物という場が地域の交流の場となっていることが分かった。

一人暮らしをされている高齢者の方もいて、移動販売をすることにより、同時にその方の体調を確認することができるととてもよいサービスだと感じた。

事業名：大学生と連携した地域資源の再発見事業

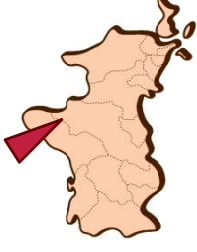
地域協議会名：農事組合法人 神友会

活動期間(予定)：平成26年度～平成28年度

発表者：神友会・山口大学

地域の現状と課題

- 活動地域： 山口市阿東徳佐
- 地域の概況
 - 十種ヶ峰麓に位置する神角集落は四季折々美しい自然と農地に囲まれている。
- 地域の課題およびニーズ
 - 十種ヶ峰にヤマシヤクヤクが咲く頃に「春の交流イベント」を開催し、特産品を販売、登山客との交流、地域資源の再発見、情報発信を行っているが、今後もより多くの情報を発信し、地区外の人との交流を模索したい。



取組の概要

到達目標

地域の魅力を農業体験を通じて理解し、複数の手段を用いた情報発信を行う

地域協議会の活動内容(予定)

地域を知るために、主産業である農業体験、情報発信のための事前準備として学生の目から地域内を見る。
登山客の安全を確保するため看板等の整備を行う。

大学等の支援内容(予定)

地域の魅力を住民が理解し、地域で安心して暮らす環境について提案する。
防災情報の共有方法を提案する。

昨年に引き続き農業体験と前年度制作した看板等の設置する。
地域興しのプランの制作。

情報発信の手段について検討し、地域の実情に合わせた最適な方法を提案する。

地域興しに向けての行動を実施する。

地域活性化のための情報発信の評価を行い、継続的な地域興しの支援方法を提案する。

平成26年度

平成27年度

平成28年度

活動状況①

地域活動交流

- 地域の生活を知る

地域の情報発信支援

- 地域の魅力の情報発信
- SNSを用いた情報発信
- 安心・安全情報(防災情報)の情報発信

活動状況②



地域活動交流(田植え)



地域活動交流(稲刈り)

取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
 - 地域の魅力を大学生の目線で理解し、地域住民にフィードバックすることができた
 - 地域を訪れる観光客に対して、SNSを通じて防災情報を発信することができた
- 残された課題や今後の取組
 - 紙や看板などの従来からの情報発信との比較検討を行う必要がある
 - 情報の継続的な発信方法について検討を行う必要がある

活動状況③



地域の情報発信支援(事前踏査)



《例1》事前にインターネット上で危険な場所に関する情報を知る事ができる。

①地図情報にアクセスする

②地図情報に対向した写真(危険箇所を表示)

地域の情報発信支援(SNS)

地域の情報発信支援(研究報告)

活動参加者

地域での受入組織

農事組合法人 神友会

人数21名

- 代表理事 鶴岡常志
- 副代表理事 鶴岡康男 外19名



超高齢化集落において、日頃接する事のない若者の存在は元氣とパワーの源となる。農作業以外にも食時のたわいのない会話に住民の目は輝いていた。

支援大学等

山口大学

人数10名

- 教育学部1~4年生(教員養成)



卒業研究で、地域の活性化を題材に、地域の活動体験や、防災情報に注目したSNSを通じた情報発信の方法について検討しました。

事業名：広島修道大学学生等による「平山台げんき化」計画事業

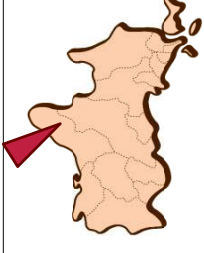
地域協議会名：平山台交流実行委員会

活動期間(予定)：平成 25 年度～平成 26 年度

発表者：広島修道大学 人間環境学部 三浦ゼミ

地域の現状と課題

- 活動地域： 萩市田万川地域小川地区
- 地域の概況
果樹団地(桃、りんご、ぶどう、梨、栗)
多品種・少量栽培が特徴
- 地域の課題およびニーズ
平山台の地域資源(四季の花・人財等)の活用により、都市住民など地区外からの新たな集客に努め、交流による地域の活性化を目指す。



取組の概要

到達目標

地域の認知度向上、都市部住民との交流による地域活性化

地域協議会の活動内容(予定)

平山台を含む田万川地域及び近隣地域の地域資源を発掘し、情報の整理

大学等の支援内容(予定)

- 生産果実のブランド商品化の提案(ドライフルーツ、ジャム)
- 近隣観光資源の探索

「地元散策プラン」等、地域内滞留型・周遊型のツアープランの作成

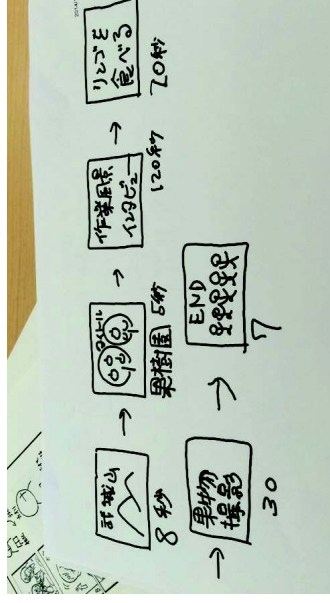
- 果樹生産者の魅力の発信(映像化)
- 地域の魅力、人々の魅力のブラッシュアップと発信(ブック制作)

平山台を中心に萩地域、津和野地域を含めた地域循環ツアープランの提案及びPR

活動状況①

動画を制作→YouTubeにアップ

- 平山台果樹団地を多くの人に知ってもらうために、YouTubeに動画を投稿することに。
- 生産者の果樹生産にかける思いを伝えるため、生産者へのインタビュアーを中心に構成。



活動状況②

生産果実の加工品提案

多品種・高品質である果物を使った、安心・安全な無添加ドライフルーツを商品化、日本酒と合うスウィーツの開発を提案。地元の澄川酒造「東洋美人」とのコラボを検討。

→ **多品種を生かした個性ある商品化(様々なドライフルーツ)、和菓子(どら焼き、白羊羹など)への応用。これを、酒祭りでお披露目する。**

ジャム

多品種・高品質を特徴として出せるジャムの開発を提案。まず、先行されている山口県周防大島のジャムズガーデンの展開を分析

→ **大量生産ではなく、生産者の思いと、素材の良さを表現できる商品開発が重要(多品種であることを生かす。ブレンドによる個性化、希少性の強化)**

活動状況③

コンセプトブック《平山人》制作

- **制作意図**: 平山台の方に自分たちの生活や活動に価値があることを再認識してもらい、自信や誇りを持ってもらうため。
- **コンセプト**: 平山台の魅力を「和」、「間」、「所」の3キーワードにまとめると。
- **構成**: 平「和」な暮らしを生み出している人々、都市と農山地をつなぐ中山「間」、人々の活動をもてなす台「所」 それぞれを表現

他の観光地との連携による集客

- 果樹団地そのものには集客力があまりない。これを補うために、近隣の景勝地「曇が淵」と連携しての集客を考案
- 都市部でのアンケート調査より、集客可能性のあることを確認
- 当地までのルートが分かりにくいことから、道の駅ゆとりパーク田万川から平山台果樹団地へのルートマップを提案。

取組の成果等

- **地域の課題に対してどのような効果があったか**

資源調査を通じて学生達より、平山台の果物や園地について多くの感想を頂き、また、そこで働く人が最大の魅力だと指摘されて、驚きと感動であった。地元生産者にとって足元を見つめる機会となり、自らが関わり、外に向けて行動を起こす勇氣を引き出しもらった。

- **残された課題や今後の取組**

課題… 広報宣伝活動、発信体制整備など

今後… 学生たちのプランを受けて、内部で検討を重ね、

十分に計画を練って実行できることから取り組みたい。

ドライフルーツ

- ドライフルーツからの新しい加工方法の創作、東洋美人に合う和菓子の味の探求

ジャム

- 品種ごとにジャムに合フルーツを調べる

コンセプトブック

- コンセプトのキーワードをさらに掘り起こす

他との連携

- 曇が淵だけでは誘引力が不足。その魅力をストーリーとして伝えることと、他の近隣誘引スポットを見出すこと

活動参加者

地域での受入組織

平山台交流実行委員会

- 代表 高津 聡
大学生が地域に入ることによって、地元の人意識の変化がみられ、自分たちが動かなければいけないことに気付かされたように思う。
- 副代表 吉田 幸良
たくさんの方の意見がありがたく思えた。提案されたコンセプトを是非使わせて欲しい。
- 山本好弘
学生の若い息吹を感じることができ、うれしかった。

支援大学等

広島修道大学

人数 5名

- 4年生 谷田 一晃
中山間地域というものを5感で学ぶことが出来ました。
- 3年生 壹貫田 博史
実際に地元の人と意見を交換し、コミュニケーションとる大切さを学んだ。
- 3年生 大田 剛徳
大学の講義だけではわからないことが地元の人と関わっていく中でたくさん見えってきた。
- 3年生 折出 襟華
地元の方の温かきを感じ、地元の魅力の生かし方を学んだ。
- 3年生 峠田 和紀
人と話すことが苦手であったが色々な人と関わるうちに人と話す能力が身についた

事業名：魅せます！明木プロジェクト

地域協議会名：彦六・又十郎伝保存会

活動期間(予定)：平成25年度～平成27年度



発表者：山口県立大学「ニチゲツモク企画」

地域の現状と課題

活動地域：萩市明木

・地域の概況

萩往還の宿駅としての歴史をもち、現在もハイカーの休憩ポイントの一つとなっている。

地域の課題およびニーズ

○課題

・地域の文化資源を活かし、地域内外の交流を促すイベント等を盛んにすること。

・萩往還に行く人たちの休憩ポイントとして充実させ、明木での滞在時間を伸ばすこと。

●ニーズ

・地域に伝わる「彦六・又十郎伝説」に基づく「おもいやり」の心を後世に伝えていきたい。

・萩市中心部とは異なる明木の魅力をより一層見出す。



取組の概要

到達目標

来訪者が明木に足を運び、滞在するための仕組みづくり

平成25年度

地域協議会の活動内容(予定)
(活動準備期間)

- ①彦六・又十郎伝説の普及活動
- ②明木の魅力向上活動
- ③明木農業文化祭の企画実施

(未定)

平成26年度

大学の支援内容(予定)
(活動準備期間)

- ①おもいやりの明木ツアーの実施
- ②縁台の提案・設置
- ③おもいやりの言葉プロジェクトの企画・実施

(未定)

- その他：
 - ・農家体験ツアーの提案、モニターツアーの実施。
 - ・撮影スポットの提案、試行。

(未定)

活動状況①



おもいやりの明木ツアープロジェクト

明木のテーマである「おもいやり」をはじめ、明木の歴史や豊かな自然を感じられる徒歩ツアーの企画です。

2014年11月、実際にパンフレットを配り、一般の方々に参加してもらうモニターツアーを実施しました。明木の観光要素の魅力と今後の課題点を再認識するために大変有意義なイベントとなりました。

今後はより地図を分かりやすくし、パンフレットに場所の説明や見どころを追加したものを萩市の宿泊施設に置いてもらいたいと考えています。



パンフレットの地図(一部)

活動状況②

① 「これも何かの縁だい」プロジェクト



2014年11月、カフェの様子。



明木市バス停に設置された縁台の様子。

明木のテーマである「おもいやり」を来訪者にも感じてもらうための企画です。

2014年11月、明木神社前に縁台を設置し、訪れた方にお茶をおもてなしする「おもいやりカフェ」を実施。ハイカーの皆さんに大好評でした。

現在、制作した縁台は明木市バス停や滝口酒造前に設置しています。

今後はQRコードの取り付けなど、おもいやりの物語に触れられる場となるようにしていきたいと考えています。

取組の成果等

地域の課題に対しての効果

- ① 彦六・又十郎伝説を基に、「おもいやり」のテーマを引き出し、各種のイベントを実施できた。
- ② これにより、地域のテーマ「おもいやり」に多様性が生まれ、より幅広い年代層に興味・関心を持ってもらう方向性が生まれた。
- ③ 一過性の催しだけでなく、「縁台」、「おもいやりカード」など、継続的に地域の魅力を向上させる取り組みを試行できた。
- ④ 大河ドラマとも関連させ、明木へ実際に足を運んでもらえる仕組み（まち歩きコース設定）も整備することができた。

残された課題や今後の取組

- ① 外部への発信の仕組みを工夫し、より幅広い年代層に来訪して欲しい。
- ② 地域の皆さんとの共同作業をより密に行いたい。

活動状況③

② 「おもいやりの言葉」プロジェクト



昨年11月イベント時、カードをカーテンのように設置した。



思いやりカード。現在3種類だが、今後追加する予定。

明木のテーマである「おもいやり」を目に見える形にするための企画です。

2014年11月、明木神社前で、はがき大のカード(おもいやりカード)に思いやりの言葉を書き、自分のカードと置いてあるカードを交換という形式で実施しました。

現在、カードは明木図書館に設置され、活動は継続中です。

今後は、おもいやりの言葉を明木の各所で展示する活動に展開させたいと考えています。

活動参加者

地域での受入組織

彦六・又十郎伝保存会

人数24名

- ・ 青木勇夫
- ・ 石津明男
- ・ 内村幹雄
- ・ 岡村善武
- ・ 神崎敏子
- ・ 原玉勝利
- ・ 斉藤敏和
- ・ 瀧口治昭
- ・ 瀧口吉敬
- ・ 田中進
- ・ 田中博司
- ・ 土山藤夫
- ・ 長谷秋恵
- ・ 中村敬一
- ・ 野上哲正
- ・ 野村謙司
- ・ 林壯助
- ・ 平田美代子
- ・ 福本久志
- ・ 溝部吉継
- ・ 守永和子
- ・ 矢田征男
- ・ 山崎光一

支援大学等

山口県立大学

人数14名

- ・ 文化創造学科3学年 足達剛志
- ・ 文化創造学科3学年 木村萌恵
- ・ 文化創造学科3学年 島田玲実
- ・ 文化創造学科3学年 平櫛祐佳梨
- ・ 文化創造学科3学年 水谷遥
- ・ 文化創造学科3学年 宮崎敬輝
- ・ 文化創造学科4学年 浅井美保
- ・ 文化創造学科4学年 米山らみの
- ・ 文化創造学科4学年 久岡春南
- ・ 文化創造学科4学年 三浦真衣
- ・ 文化創造学科4学年 森千恵
- ・ 文化創造学科4学年 山村美樹
- ・ 国際文化学研究科修士2年 王晶晶
- ・ 指導教員 斉藤理(国際文化学部 准教授)

学生の案と地域の人の案の意見がまじりあがり、企画を形にするこの難しさを感しました。

イベントの企画から関わること、次年度に向けての改善点も戻すことができてました。



地域の皆さんとの交流をもっと深めて行きたいと思います。

事業名：無農薬米生産から販売過程に至るまでの支援プロジェクト
 販売過程に至るまでの支援プロジェクト
 地域協議会名：東後畑・みんなのむら・まち応援隊
 活動期間(予定)：平成24年度～平成26年度

発表者：東後畑・みんなのむら・まち応援隊

取組の概要

到達目標

米作りに着目した地域の資源活用と、地域に訪れる人々の交流を活発化させる

地域協議会の活動内容(予定)

- 平成24年度
- 農作業(野焼き等)
 - 地域の現状調査、交流会を基にした観光案内マップ作り
 - 宇津野多目的交流館の除草作業等

大学等の支援内容(予定)

- ・野焼きの支援、畦作田の管理のため、刈倒して草を焼くための火遣づくり。
- ・交流センターの公園整備等の支援、公園内の生垣等の樹木整枝、刈り込み等を実施。
- ・交流センター案内図が無いため、地域の方々と作成に取り組んだ。

- 平成25年度
- 農作業(野焼き等)
 - 農業ファッションショーでの米粉パン提供
 - 古民家の調査、活用協議

- ・毎年2月に実施される野焼きへの支援
- ・棚田米を使用した「ゴパン」の作成と「農業スタイルコレクション2013 in 長門市油谷 with 会津若松会場」での試食会開催。
- ・棚田展望台周辺の清掃活動
- ・空き家古民家の活用策を協議、清掃に着手。

- 平成26年度
- 棚田保全に係る各種作業
 - 無農薬米販売に係る特産品開発と販売
 - 地域交流拠点の活用

- ・毎年2月に実施される野焼き、無農薬米の収穫への支援
- ・無農薬米を使用した米粉パンの製造販売、棚田米の販売支援
- ・棚田カフェを交流拠点の活用とした農産物、米粉入りパン販売支援

地域の現状と課題

活動地域：長門市油谷後畑

地域の概況

山口県の北西部に位置し、最寄り駅のJR山陰本線 人丸駅から約15分、近隣スーパーやガソリンスタンドも15～20分かかかかる遠隔地。海に面した斜面地には、総数210枚の田圃があり、100段もの棚田を成している。1999年に農林水産省によって棚田百選に認定されており、国土・環境の保全、農村の美しい原風景の形成している。

地域の課題およびニーズ

課題：農家の軒数・人口減少による過疎、高齢化による耕作の担い手減少。

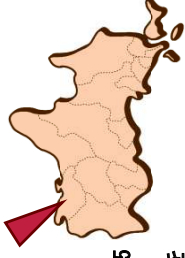
耕作放棄地の増加と放棄地の敷化し、藪に住みつく猪による被害も発生している。

高齢夫婦、もしくは1人暮らしをされている方々にとつて、息抜きとなるような場所が少ない。

また、無農薬米の生産・販売等は発展途上にあり、新たな取り組み課題となっている。

ニーズ：若手による新たな農業の担い手、農業ボランティアの創出

コミュニティサロン等、地域内で交流ができる施設の設定・運営



活動状況①

○棚田保全に係る継続的な取り組み

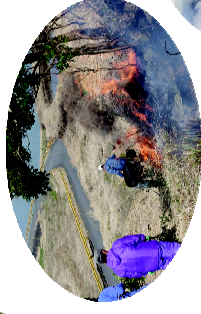


宇津野多目的交流館にて昼食。地元営農組合のメンバーと大学生達が交流を深めている。

休耕田管理のための野焼き



Step1
枯草を田の中央に集める



Step2
風向きを考慮して着火

休耕田の敷化を防ぐため、大学生・地元営農組合が休耕田の野焼きを取り組んでいる。



Step3
周囲の敷等に延焼しないように見張る

野焼きを行う面積は合計で200ha

安全に作業するためには、多くの目で火を監視する必要がある。人手不足な現状、大学生達の存在はこの作業で欠かせない存在となっている。

活動状況②

〇棚田米生産に係る継続的な取り組み

活動事例

無農薬米稲刈り



昨年からの取り組みで、無農薬米の栽培。その稲刈りが今年も行われた。ぬかるんだ田んぼの土を歩き、泥にまみれながらも黄金色に育った稲を収穫した。今回は安倍昭恵内閣総理大臣も参加された。地域住民・学生とともに収穫が行われた。

活動事例

草刈り、東後畑のもち米を使った餅つき



後畑産のもち米を使った餅つき。餅つき始めた最初、学生達はうまく的にめがけて杵をたたくことができなかつた。回数を重ねるにつれて上達した学生達。今では少なくなつた昔ながらの年末の文化を、学生達は体験して知ることができた。また、周辺の草刈を地元住民と協働で行う等、地域を守る取り組みが行われた。

活動状況③

〇無農薬米販売に係る特産品開発と販売支援

活動事例

宇津賀地区ふるさとまつりにて無農薬の米粉入りパン販売



昨年試作を行った米粉パン。今年は、地元のふるさとまつりにて販売が試みられた。実際に購入された方からは、「もちりとした食感で美味しい」との感想。普通のパンと違う、棚田でとれたお米特有のもちもちの感想。特産品としての大きな強みだ。

活動事例

米粉入りピザ・パンの商品開発
地域交流拠点の活用



地域住民が交流する場所。特産品を使ったピザ・パンを提供するカフェができたことで、そこに訪れた住民同士での交流が増え、地域内のコミュニケーションが増えた。

また、パン教室を開催して、よりアロロの味に近い米粉パン、アレルギーフリーの米粉ピザ開発に乗り出すなど、特産の「お米」を活かす取り組みを行った。製作過程の全てで、地域住民と学生達の協働で作った石窯を活用している。石窯を稼働させるための薪集めも地域住民、学生と行った。

取組の成果等

・地域の課題に対してどのような効果があったか

- 〇地域住民との協働推進
病気に弱地に山かけることにより、各地区の住民とは顔なじみになり、協働が進むにつれて、担い手が地域に供給されるだけでなく、学生連自身も中山間地域の現状を理解するといふ効果もあった。
- 〇新たな地域の特産品開発について
棚田米を使用した米粉パン、ピザは小量のみの使用したものでありもちもちとした触感、試食者からは美味しいと好評で、地元のみで販売した際も完売。米粉の生産確保、パンを近隣施設で製造し販売することが可能で、新たな特産品として米粉パン、ピザの可能性を感じている。
- 〇地域交流施設
住民が交流する場所ができたことにより、今まで交流することのなかった海谷地区内外の住民間で交流が生まれ、地域内のコミュニケーションが増えたことにより、地域の様々な課題についても地域住民から活発な意見を聞き取ることができた。

・残された課題や今後の取組

- 〇活動地域へのアクセス
下関市立大学から東後畑に行くに要する時間は2時間近く。活動の開始が早いと朝早く下関までかけざるを得ないが、学生にとって容易でない。交流施設を拠点化できると、学生達が宿泊しながら活動することができ、課題の解決につながることを考えられる。
- 〇棚田を多くの人に認知してもらうための企画進行
棚田を訪れる観光客の滞在時間を現状よりも長くする。棚田等を通じて美観を保つ取り組み、無農薬にこだわりの野菜の生産にも取り組む等、東後畑の地域で取り組める様々な企画を今後も続けて行っていき、実行がさらに必要である。
- 〇地域・行政・学校との連携を深める役割
支援活動を続けていくには、多様な機関との連携が重要かつ不可欠であることを、これまでの活動を通じて痛感している。役割を担える学生等を育てることや今後の課題である。

活動参加者

地域での受入組織

東後畑営農組合・地域住民等

人数

30名以上

- ・ 永松 泰
 - ・ 三村 建治
 - ・ 大田 寛治
 - ・ 池永 達夫
 - ・ 尾崎 正美
 - ・ 中野 靖子
 - ・ 中野 茂樹
 - ・ 小島 潤々六
 - ・ 米永 治之
 - ・ 河原 綱司
 - ・ 埴村 浩
- その他、
福田氏、村上氏、作村氏、内田氏等多数の地域住民の方々が活動に参加しました。

～感想～
・毎回、学生が地域で活動しにやってくることを楽しみに思う。
・交流場所ができたことで、地域の課題や問題を話し合う機会ができた。

支援大学等

下関市立大学等

人数

延べ300人以上
(過去参加者も含む)

- ・ 4年 森 祐 樹
 - ・ 4年 杉尾 宏樹
 - ・ 3年 小西 鷹人
 - ・ 3年 安倍 哉汰
 - ・ 3年 吉富 彩香
 - ・ 3年 林 晶子
 - ・ 3年 柴田 明美
 - ・ 3年 石橋 和弥
 - ・ 3年 田原 頌也
 - ・ 3年 中野 洸也
 - ・ 2年 立木 大喜
 - ・ 2年 森 弘賢
 - ・ 2年 河野 樹人
 - ・ 2年 滝本 優人
 - ・ 1年 橋口 眞時
 - ・ 1年 鳥井 太郎
- その他、多数の学生が参加しました。

～感想～
地域支援内容は各地域によって異なるニーズがある。それらを掘りあげていくに際して、人から間接的に聞いた2次情報、3次情報をあてにするのではなく、実際に地域に相対した活動を通して問題を解決していく事が真に大事なことであると思いをしました。今後は、調査研究を通じて卒論のテーマとして考えている。

事業名：中須北地区における空き家を活用した交流促進事業
地域協議会名：中須北古民家再生プロジェクトチーム
活動期間（予定）：平成24年度～平成26年度

発表者：ヤマグチDIY部（徳山高専ほか）

取組の概要

到達目標

住民、高専生が力を合わせて、地域の空き家を“Do It Yourself(自身で作ろう)”で「地域の情報発信拠点」として再生すること

地域協議会の活動内容(予定)

平成24年度

<地域のニーズ>
高専生と一緒に空き家を活用方法を検討してほしい

大学等の支援内容(予定)

休日を利用して...
・ 地域住民に対するヒアリング
・ 地域に関する勉強会
・ 空き家の実測調査

平成25年度

<地域の課題>
過疎高齢化に伴う、人口減少と空き家の増加

地域住民と若者で空き家を実際に改修
・ 屋外モルタル打設
・ サッシ塗装
・ 内壁工事 など
地域交流BBQ大会の開催

平成26年度

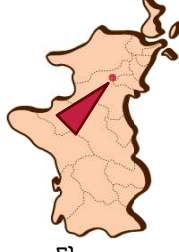
<地域の課題>
過疎高齢化に伴う、人口減少と空き家の増加

地域住民と若者で空き家を実際に改修
・ フローリング貼り
・ 外壁の装飾
・ 家具の製作 など

地域の現状と課題

- ・ 活動地域：周南市中須北
- ・ 地域の概況

- ①周南市の中心から20km北東に位置する標高300mの中山間盆地
- ②県の棚田20選に選ばれるほど美しい田園景観が見られる



- ・ 地域の課題およびニーズ
- 過疎高齢化に伴う、人口減少と空き家の増加が深刻な問題となっている



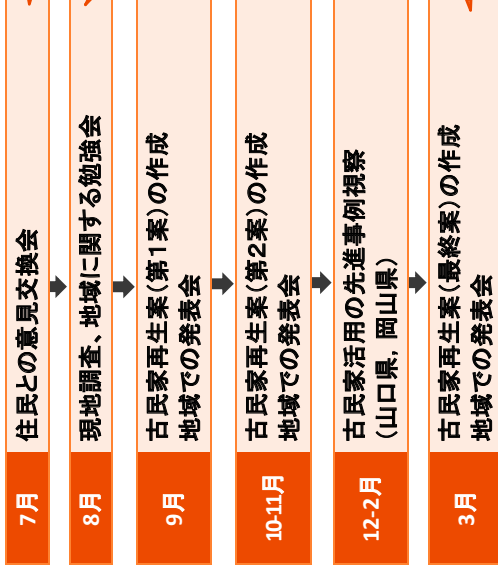
山口県の棚田20選に選ばれた棚田の景観



中須北の棚田に映る夕陽

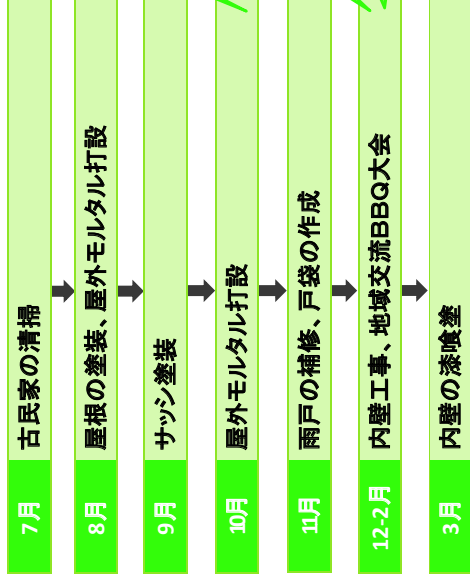
活動状況(2012年度)

- ・ 地域住民と共に空き家の再生案の検討を重ねてきました！



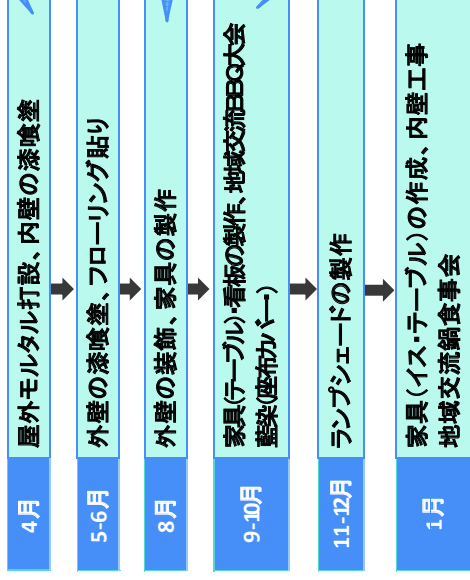
活動状況(2013年度)

- 地域住民と若者で2012年の再生案を、DIY作業により実際に改修してきました！



活動状況(2014年度)

- 大工・左官工事だけでなく、工作や藍染などによる空間のデザインも進めてきました！



取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
共に改修活動を行い、地域交流BBQ大会を開催したり、地元の方と学生が積極的に
おしゃべりすることができ、活動を通して地域全体が活気づいてきていると感じる。



地域交流BBQ大会の様子



地元の方との雨戸取付の様子

- 残された課題や今後の取組

平成27年3月に竣工を目標に活動

開設後は、利用者(地元住民、カメラマンやロードレーサーなど)による評価をふまえて、DIYにより改善

活動参加者

地域での受入組織

人数10名

- 主要メンバー
- 会長: 佐伯伴章
 - 副会長: 佐伯貴生
 - 副会長: 伊勢本健
 - 副会長: 佐伯町子
 - 副会長: 桑田由美子
 - 副会長: 佐伯妙子
 - 周辺の地域住民の方々

支援大学等

人数44名

- 徳山高専・山口大学・市職員・その他
- <徳山高専>27名
- 1年 田辺晴絵
 - 1年 田村佳愛
 - 1年 佐々木日菜
 - 1年 橋本菜帆
 - 2年 上田涼乃
 - 2年 高田志保
 - 2年 中辻英子
 - 2年 石丸七海
 - 2年 西川陽花
 - 2年 沖知葉
 - 2年 川崎奈奈
 - 2年 中野翔太
 - 2年 田中隆之典
 - 2年 大本明佳
 - 2年 河口みのり
 - 2年 有村優花
 - 3年 村上佳奈
- <山口大学>4名
- 3年 平林千春
 - 3年 杉原航平
 - 2年 浦井萌
- 他1名
- <市職員>3名
- 藤原要真
 - 北川尊特
 - 清水宏昭
 - 平野貴志
- <その他>3名
- 徳山高専OB・OG>7名
 - OB 三戸真嗣
 - OB 滝永仁志
 - OB 松村隆寛
 - OB 竹中虎
 - OG 福田理沙子
 - OG 長岡里穂
 - OG 倉田寛子

中須は高齢化率も高いから、若い人たちがここの来て、「わーわー」「きゃーきゃー」という響きがいいじゃない

色を塗ってきれいに仕上げようか、中須をアピールしようやってもらえることが嬉しい

DIY作業が早くやりたい！

地元の人たちのおしゃべりが楽しみ♪